

衣

中部日本和裁教授連合会

着る楽しさだけでなく、 仕立てる楽しさ

針供養で知られる若宮八幡社の 神御衣神社を再建

名古屋市中区にある若宮八幡社の境内社である神御衣神社では毎年2月8日に「針供養」が行われます。もともとは裁縫組合同業者によって海部郡立田村(現愛西市)に明治23年(1890)に造営され、明治36年(1903)に若宮八幡社の境内にある津島社へ遷して合祀し、翌年に津島社を神御衣神社と改号しました。昭和20年(1945)の空襲で焼失しましたが、昭和29年(1954)に設立された中部和裁教授連合会が中心となり昭和32年(1957)に再建しました。

針供養は折れたり曲がったりした古針を豆腐やこんにゃくなどの柔らかいものに刺して供養し、裁縫の上達を願う古くから日本の各地にある神事です。若宮八幡社で行われる針供養は、毎年多くの人に参加していましたが、近年は生活の中で針を使う事が少なくなってきたこともあり、参加者は減っています。

着物を仕立てる楽しさを伝える

今では和服姿の人を見かける機会が減っています



和裁の基本である運針によって、仕立ての出来栄が大きく変わる

が、昭和40年(1965)ころまでは、普段着として着物を着るのはもちろん、着物の仕立もできる人も沢山いました。和裁を教える学校や塾も多数ありました。和裁を習った人が呉服店などから依頼され職業として仕立てをすることも珍しくありませんでした。しかし、技術の水準にばらつきがあったり、仕立て料金の基準も明確ではありませんでした。そこで、中部和裁教授連合会では、技術水準と料金体系を統一し、わかりやすく決めました。

昭和60年(1985)ころまで和裁免許(和裁技能士)を取得する人は年間で20人ほどいました。3級を取得すれば和裁の教員として認められますが、教授となるには1級の資格が必要で、習い始めてから8年はかかります。

着物を仕立てる人は少なくなったとはいえ、成人式になるときれいな和服姿の若い女性が人目を引きまします。また、結婚式で着物を着たいという女性もたくさんいます。

着物は長方形の大小の布を縫い合わせて仕立てられますが、それらの布をほどいて、布の位置を替えることで簡単にリサイクルできるという特徴があります。着物は着るだけでなく仕立てる楽しさもあります。



神御衣神社の針供養塔

■職種：和裁士 ■組合設立年：昭和29年 ■組合住所：津島市百町みどり台110
■電話：090-8078-0266 ■ファックス：— ■ホームページ：—